



ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 15

～スケートは達磨を目指し滑らかに～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

平成18年1月下旬、冬季期国体スケート競技会が群馬県で開催された。筆者は徳島県の本部役員として本大会に随行し、手に汗にぎるレースの数々を目の当たりに。今回は、スケートの話題について触れてみたいと思う。

ショートトラック

一周111・12mの楕円リンクで、熱い闘いが続く。徳島県からエントリーしているのは、阿波銀行の池守希実子さん。大学生のときには、選手権大会でもトツプクラスの一人であった。多忙な仕事で練習に十分な時間がなかったが、調整して現地に乗り込んだ。

大会会場は、群馬県総合スポーツセンター アイスアリーナ。注目される短距離の500mがまさに今から始まろうとしている。

レフエリーの声が響く。[Go to the Start.] 4人の選手がスタートラインに並ぶ。[Ready.] の瞬間、会場の時間が止まり、すべての聴衆が息を潜める。پ



図1 先頭は池守選手、外側（写真左）が長野代表の小澤幸選手

ーーーと張り詰めた空気だ。選手は微動だにしない。約2秒で号砲の音が響きわたる。「パーン」。突然、リンクサイドからわき上がりてくる同僚や各県関係者からの声援。静寂から喧騒へと雰囲気が一変してしまった。

池守選手のダッシュ、なかなか良い。しかし、それを超える選手がいる。その人とは、2002年ソルトレーキ、2006年トリノ五輪代表として知られる小澤美夏選手だ。諸外国のアスリートと競い合う凄いパワーとテクニックで疾風のごとく滑走し他の3名を引き離していく。

ナ一入口で、池守選手は他の選手との接触アクシデントに巻き込まれて転倒。シヨートの試合とは、狭いスペースでの攻めき合いが魅力なのだ。よくあることであり、仕方がない。

妃ギアスケートでは浅田真央さんと舞さんの姉妹が有名である。同様にショートトラックでも、小澤美夏と幸さんの姉妹はトップアスリートとして、広

なお、1000mレースでは、池守選手は後半まで先頭を滑走（図1）。しかし、最後には美夏選手の姉でトップ選手の小澤幸選手に抜かれて3位となり、予選を通過できなかつた。

残念ながらレースには敗れたが、小澤姉妹との競走と共に、池守選手も良い経験と思い出になつたことであろう（図2）。

く知られる存在だ。

実は、私は何度か両選手と一緒に滑ったことがある。10年前、私は岡山県でのアイススケートの練習に参加させていただいた。当時美夏さんが中学生、幸選手は高校生で、抜群の実力クラブチームの指導者が姉妹の父であり、厳しい練習で知られる鬼コーチだ。私もその雰囲気を体験させて

小沢貫録の勝利

成年女子 池守（阿波銀行）予選落ち
10000
スケート 国体 第62回国民体育大会冬季大会スケート、アイスホッケー競技会第4日は30日、群馬県総合スポーツセンター伊香保リンクなどで行われ、フィギュアスケート少年女子は、全日本ジュニア選手権覇者でショートプログラム（SP）2位の武田奈也（東京・日本橋女学館）は新田昌樹（北海道・白樺学園高）、同女子は市波銀行（1分56秒286）落選

（高）がフリー1位で逆転し、初優勝した。

スピードスケートの決勝は千五百㍍のみで、成年女子は昨年の世界ジュニア選手権代表の石沢志穂（北海道・岸本医科学研究所）が2分1秒75の大歴史的新で2連覇。同男子は出島茂幸（茨城・開発計画研究所）、少年男子（成年女子）ショートトラックは千五百㍍選6組③池守希美子（阿波銀行）が制した。

シヨートトラックは千五百㍍（熊本・山梨学院大）、同女子は小沢美夏（大阪・阪南大）のトリノ五輪代表が貫録勝ち。徳島県からただ1人出場した池守希美子（阿波銀行）は予選落ちした。アイスホッケーは少年が北海道と埼玉、成年は埼玉と東京が決勝に進んだ。

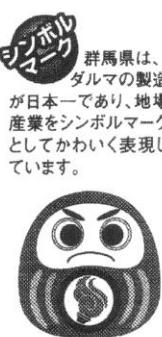
（徳島県関係の成績）

もらつた。

その後、私は国体参加の標準記録を突破し、42→46歳に冬期国体のロングトラック部門で出場させていた。だいたいというワケである。

だるまのよつけ

今回の群馬国体のパンフレットを図3に示す。掲げられたテーマやスローガンを見ると、元気、活気、根気が出てきそうだ。疲れ果てている人も、生気を取り戻して、銳気を養い、覇気



群馬県は、
ダルマの
が日本一であり、地場
産業をシンボルマーク
としてかわいく表現し
ています。

を感じて、前向きに進んでいけるようになるかも。

達磨大師に由来

また、シンボルマークの「だるま」がとても可愛い。そもそも、だるまとは印度の達磨大師に起源がある。

「だるま」がとても可愛い。

そもそも、だるまとは印度の達磨大師に起源がある。

當時は、誰もが一度は罹り、高熱で苦しむことも多かつた。そこで、赤いだるまは、「痘瘡除け」の祈願としてそもそも、だるまとは印度の達磨大師に起源がある。

「痘瘡」がある。現在では絶滅したとされているが、當時は、誰もが一度は罹り、高熱で苦しむことも多かつた。そこで、赤いだるまは、「痘瘡除け」の祈願としてそもそも、だるまとは印度の達磨大師に起源がある。

国体で徳島県が最下位

国体の正式名称は国民体育大会であり、national athletic meetと訳される。

実は、日本の国体が世界で最大規模の大会であるのをご存じだろうか。冬期大会から始まり、本大会（夏）（秋）の結果も加算され、47都道府県が1年をかけて競うからだ。

2006年秋、大きな問題

で得点を伸ばすことができなかつた。県民の期待に応えられず残念」と。

この解決に向けて、県下で国体関係者の会議が行われ、私も参加した。今後、様々な角度から検討し、強化体制の刷新が期待されている（図4）。

七転び八起き

今回の国体で、池守選手が五輪代表の小澤美夏選手と姉の小澤幸選手と競争し、残念ながら負けてしまった。しかし、だるまのようにな、「手も足も出ない」ということはない。

スポーツは文化

本県がこの事態に陥った

ことは、私たちの身体の調子が次第に悪くなり絶不調になつた状態にたとえられる。病気をどう診断し治療するか？まず原因の多面的な分析が必要だ。次に、軽い薬で治療するか、根本的な手術が必要かもしれない。

徳島は文化不毛の地だ、などと揶揄されることがある。

が浮上した。徳島県の国体の成績が全国最下位に。その詳細をリサーチした。本県は32競技の出場で11競技46種目に入賞。前年を50点上回る666・5点を獲得したが、順位は僅差で最後位だった。県選手団の中原祐一総監督は「団体競技で得点を伸ばすことができなかつた。県民の期待に応えられず残念」と。

この解決に向けて、県下で国体関係者の会議が行われ、私も参加した。今後、様々な角度から検討し、強化体制の刷新が期待されている（図4）。

七転び八起き

今回の国体で、池守選手が五輪代表の小澤美夏選手と姉の小澤幸選手と競争し、残念ながら負けてしまった。しかし、だるまのようにな、「手も足も出ない」ということはない。

国体の成績が伸び悩んで

いても、物事には山もある谷もある。数学や物理で出てくる「サインウェーブ」の波みたいなもの。転がりながら頑張り、達磨大師から学んで心を磨き、「七転び八起き」の精神で、チャレンジを続けていきたいものである。

国体の成績が伸び悩んで

いても、物事には山もある谷もある。数学や物理で

出てくる「サインウェーブ」

の波みたいなもの。転がりながら頑張り、達磨大師から学んで心を磨き、「七転

び八起き」の精神で、チャ

レンジを続けていきたいものである。

る。残念で情けない。目の前の利益しか見えないのか。経済も確かに重要であるが、スポーツを含む芸術文化の価値について考えてみてほしいと思う。日本人は古来、優秀だ。国家の品格、県の風格、人の品性を重んじていただきたい。



図3

江戸時代に流行した病気にから信じじられていたから。二つめは「赤い色が病気を治す」と人類の長い体験から信じじられていたから。

二つめは「赤い色が病気を治す」と人類の長い体験から信じじられていたから。

二つめは「赤い色が病気を治す」と人類の長い体験から信じじられていたから。